

平成 29 年度 第 2 回瀬谷区地域福祉保健計画 全域計画推進懇談会 議事要旨	
日時	平成 30 年 3 月 1 日 (木) 午後 2 時から午後 4 時 30 分
場所	区役所 5 階大会議室 A B
出席者	出席委員 18 名中 14 名
	<p>1. 開会あいさつ (区長)</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 29 年度第 1 回全域計画推進懇談会報告</p> <p>◆ 事務局から 29 年度第 1 回全域計画推進懇談会 (29 年 6 月 22 日開催) の議事要旨を説明。</p> <p>(2) 29 年度全域計画の取組の報告</p> <p>◆ 事業を所管する各課課長及び区社会福祉協議会事務局長、地域ケアプラザ所長代表から、計画該当事業の進捗状況について説明。</p> <p>(3) 全事業についての意見交換 (◇ : 意見等 ➡ : 所管課による回答)</p> <p>◇ 特定健診の受診促進について、11 月 17 日に 4,972 通、未受診の方の高齢者にチラシを送付した結果について伺いたい。受診率が上がったのか。4,972 人の受診状況など伺いたい。</p> <p>➡ 12 月末の現在で、瀬谷区の対前年同時期で 0.4% プラス。全市は 0.1% プラス。それを上回る伸び率。瀬谷区は着実に受診率が伸びているのではないか。</p> <p>(保険年金課長)</p> <p>◇ 誕生月別に健診受診勧奨をしたら定着するのではないか。受診数も平均化して良い。毎月誕生月の個別発送を検討していただきたい。</p> <p>➡ 月ごとの抽出はシステム上困難。前回の意見を受け、広報よこはま瀬谷区版に「誕生月に健診を受けましょう」という PR 記事を掲載した。分散受診への工夫を引き続き検討していきたい。(保険年金課長)</p> <p>◇ 「公園で遊ぼう会」について、</p> <p>「地域の子育て支援活動に組み入れる形で事業展開」とあり、子育て応援ネットに取り込むとの説明があった。3 年前から子育て応援ネットは決定機関のない連携ネットワークの位置付けに変わった。応援ネットの中でこの事業の継続実施ができるか危惧している。</p> <p>どのような準備段階を経て、応援ネットの中に取り組んでいく予定なのか。外で遊ぶ機会が継続するためにどうあるべきかを示していただきたい。</p> <p>➡ 地域の特性に応じた形で実施したいと考えている。ご意見を参考にしこの事業のあり方、進め方について検討したい。(こども家庭支援課長)</p> <p>◇ 年間 32 回は結構な回数。相当に組織力がないとできないのではないか。</p>

◇地域包括ケアシステムの推進で看取り期の在宅でケアについて、地域での支援体制や最寄りの相談窓口など検討してほしい。

◇健全育成協議会について各中学校区の地域、各連合会長、諸団体で年に2回会議を持っている。このシートに載っていないのはなぜか。
子育て支援事業として「いきいきせやっ子事業」に取り組んでいる。他の地区でも実施中だが一切載っていない。
学校運営協議会が実施している学習支援について記載がないのはどうか。
学校運営について活動方針、評価について地域の方々から意見を聞く機会があるが記載がない。
学校教育の中で、火事・火災に対する怖さ、恐ろしさについて教育がなされるべき。

➡学校地域家庭連絡協議会に関し基本目標1の、隣近所で見守り、支え合う地域づくりに合致するので来年度は追加したい。
学校運営協議会でおこなっている事業。「まち懇」は、教育委員会で実施の為入れていなかった。(学校連携・こども担当課長)

➡区民活動の支援で、いきいきせやっ子事業は「区民協働推進事業」の「いきいき区民活動支援事業」による補助金交付対象の活動の一つとして記載しているが、よりわかりやすい記載方法を工夫していきたい。(地域振興課長)

◇計画の評価に対しての本質的な問題提起だった。協働の視点で評価すべきと申し上げたがこのシートは区役所事業の一覧になっている。皆さんが区役所や専門機関と協働し、取り組んでいるものがたくさんある。そういう視点で見ると、網代会長が挙げられたものが、この中に書いてあってもおかしくない。
第三期の全市計画では、学校や企業などとの連携も強調されている。学校がやっていることも地域福祉の観点から検討していただければ。
地域主体の活動をこのシートの中でどのように取り扱うか気になっていた。
地域の活動と専門機関、行政の活動が一体となつての地域福祉計画。どのように一体的に評価できるか今後検討したい。

◇地域との連携に子育て応援イベントの開催と記載があるが、民生委員・児童委員協議会としてはオレンジリボンのキャンペーン、児童虐待防止として11月に取り組んで来た。「地域子育て支援拠点にこてらす」に委託し、地域連携に整理されているが本来の開催主旨とのずれを感じる。
中学生がボランティアに参加するきっかけとなる仕組みを増やしてほしい。
「ボランティアの数が減って来た」と感じている。
11月のオレンジリボンキャンペーンで、駅頭のチラシ配布の協力や、地域のサロンなどのチラシを学校に配布して、自主的に生徒にボランティアに来ていただいている。ボランティアの証として、ボランティアカードに記名して捺印して返す。
5つはんこをもらえば地域振興課で証明書を渡している。
困窮家庭に対する食の支援。市社協から瀬谷区と泉区で農協が野菜を提供し、モデル区として生活困窮世帯に取り組んでもらえないかという話がある。区社協の事務局長と

の相談だがこども食堂という食の支援が同時にこどもの居場所づくり、学習支援にもなるとよい。

- ➡子育て応援イベントの開催に関して、ご意見をもとに検討していきたい。
ケアプラザの皆さんにご協力いただきながら実施し、より身近な地域で子育てを見守り支援をするという進展を図れたと思っている。児童虐待防止の視点も含め、事業を推進していきたい。(こども家庭支援課長)
- ➡ボランティアについて 2015年に神奈川県教育委員会で高校の入試制度が変わり、ボランティアや、部活動などは内申書ではなく、面接の中で確認をする方針になった。
区のボランティアセンターと連携し、区内の中高生にボランティア情報をきめ細かく提供し、ボランティアのきっかけになるようにつとめたい。(地域振興課長)
- ➡食支援でJA農協との話は、市社会福祉協議会とJA本部で調整している。瀬谷区には本郷に直売所があるが、まだ具体的に話が進んでいない。
区社協理事会等を通じ、意見をいただきながら進めていきたい。
(社会福祉協議会事務局長)
- ◇原中学校前の道路の、電信柱の移動と、道路拡張工事の進捗状況について伺いたい。
ケアプラザさんにカラーリング交流会等普及活動について今後の方向性などお伺いしたい。カラーリングにかぎらず室内スポーツの普及を推進していただきたい。
- ➡原中学校前、歩行者通行帯の整備はNTTの電柱を移設し道路側に電柱をなくす工事を進めている。東電、NTT、地元の皆さんと連携しながら進めている。
原中学校の用地の部分をセットバックし歩道を広げる工事も来年度進めたい。
(土木事務所所長)
- ➡ カラーリングに関して介護予防、健康づくりという視点で進めている。
室内スポーツの普及は模索している。
せやまる・ふれあい館のふれあい祭りの中で、ねんりんピックのPRをした。
よい室内スポーツがあればぜひ教えていただき、瀬谷区内でも広げていきたい。
(地域ケアプラザ所長)
- ➡区内の施設、地区センター、スポーツセンター、ケアプラザ、コミュニティハウスで、施設間のネットワーク会議を年2回実施。さわやかスポーツ、カラーリングなども含めた室内スポーツを体験し広める体験会を設けている。
そういった場を活用して、室内スポーツの普及をやっていきたい。(地域振興課長)
- ◇地域ケアプラザとしてはコーディネーター的な役割で、結果として室内のスポーツをみなさんが楽しめるといい。
地域ケアプラザは、一番先端的なところを目指すのはいいいことではないか。
- ◇外遊びは生きる力を育てる。小さい子どもたちの感覚形成や人間関係づくりに重要だと言われている。地域の活動と連携し、外遊びが定着する形をつくっていくとよい。
外遊びの大切さをお母さんたちに伝えられるといい。
地域の赤ちゃん教室の参加者が減少し会場を減らすということで、赤ちゃん訪問員をやっている関係でお母さんたちに紹介すると、「行ってみたい」という声がある。

養育者どうしつながる場所として、遠くに行くというのは負担が大きい。7会場に減らし、その後の検証を詳しくやっていただきたい。

学習支援について寄り添い型の生活支援などいろいろなものが出ている。

寄り添い型が必要なご家庭は、長い距離の移動は大変。

瀬谷の中に拠点が増えて、参加しやすい環境づくりをしてほしい。

こども食堂、学習支援、こどもの居場所づくりは、地域で自然発生し活動が進んでいる。新しい活動の掘り起こしをしつつ各団体がつながり区役所、ケアプラ、区社協ともつながりその活動を育てていく形を作してほしい。

児童虐待の防止で要保護児童対策地域協議会のエリア別要保護児童対策地域協議会を中学校区域に1つ新しく設置がはじまった。瀬谷区は5つの中学校区で、何年かけて検証するのではなく、ぜひ一斉に5つの中学校区で進めていただきたい。

オレンジリボンキャンペーンについては、民児協と主任児童委員と一緒に7～8年一緒に実施。啓発方法を見直し効果がある形を考えていきたい。

➡「公園で遊ぼう会」については、地域でやっている活動と連携するような方向で調整をしたい。

赤ちゃん教室は区内7会場あるので周知の方法・参加しやすい工夫をしていきたい。

(こども家庭支援課長)

◇瀬谷区は出生率が高く経緯してきたが最近はいかがか。

➡瀬谷区の出生数は1,000人を切るぐらいで推移。28年度は、900少しほど。出生数は減ってきている状況。(こども家庭支援担当課長)

◇ほかの区の出生数の減り方と比較した場合はいかがか。

➡横浜市内18区では社会的な増加もあり自然の増加減少もある。市全体で言うと北部区域や、鶴見や神奈川などの東部や港北なども含めて人口が増加し南西部は減少。相鉄線が東京に直通することも社会的な要因となる。(こども家庭支援担当課長)

◇瀬谷区の人口構造が変わってきている可能性もある。自然発生的に地域で取り組みが広がっている。横浜市のほかの区、全国的にも自治会や町内会などが子育て支援に熱心に取り組んだという動きを聞いている。必要な専門性やスキルなどを獲得するため、主任児童委員さんや地域の方々が専門機関と一緒にやっていると、地域福祉保健が進むのではないか。

◇健康フェアについて素晴らしい内容なので、多くの方に参加いただけるようPR方法など工夫したらどうか。

災害時ペットの避難問題は、地域防災拠点の運営委員での指導は困難。

事前に飼い主への教育など区役所でお願いしたい。

エンディングノート・認知症はケアプラザで出前講座をしている。寸劇をやってくれて勉強させてもらった。エンディングノートはケアプラザに相談に乗ってもらえる。

こども食堂は地域で取り組んでいこうと考えている。

◇認知症の初期支援チームが心強いと思った。介護保険導入のときに成年後見は「両輪だ」と言われ、判断能力が乏しいときは後見制度の利用も一緒に進めるとのこと。一人住まい、身内の方が遠い、関係がよくない場合は成年後見が必要だと思うが、案外本人は、後見の必要性を感じていない。

法的には成年後見と言うと固過ぎるので、気軽に相談できるものが地域にあればいい。見張りになる人ではなくて味方になるという形で適切なお金の使い方を支援してくれる人がいるといい。成年後見の前の段階で助け合える方法はないものかと思う。エンディングノートも書こうと思うと結構重い。「こんなとき、こうだね」などとサロンのなとこで話し合えるといい。

➡区社協にあんしんセンターがある。ご本人に契約能力があるということが前提で、市の審査会をした上で契約。

成年後見に至る前であればあんしんセンター事業が利用できる。

後見制度では、最近では市民の方が長期間の研修を受けた上で市民後見人になることができる制度ができた。地域の方が伴走者という形で関わる。

社協でも全区を対象に市民後見人を養成していく方向で取り組んでいる。

(社会福祉協議会事務局長)

➡寄り添い型という部分で、介護保険ご利用の方であれば、ケアマネさんと一緒に中に入り込んで、「そろそろ、あんしんセンターを利用してみない？」というやり方もある。お付き合いで顔見知りになっていないと心を明かさないと安心もしない。

(高齢・障害支援課長)

◇そろそろ判断が危ないかなと気付くのは、ケアマネだと思う。ケアマネさんに普及啓発すると良い。ケアマネジャーをしていたときによくあんしんセンターを紹介していた。

◇地域では、自分で判断ができない段階に至る前にお友だちやご家族と話をし、自分がこうなったときのことを考えていこう、また周りもお互いに伴走者になろうなど啓発していくことを考えている。

地域防災拠点におけるペット対策は、地域防災拠点秋季防災訓練等で啓発活動をしている。

学校は「アレルギーの児童がいる関係で防災訓練にペット同伴は避けてほしい」という。災害時ペット同伴の避難を前提に学校長への理解促進と、地域防災拠点内での受け入れ体制について運営マニュアルの検討もお願いしたい。

配食事業などの健康指導等も併せておこなっているが、こども食堂についても、衛生上の問題、食中毒の問題等のご指導をお願いしたい。

水害対策訓練について、隣の大和市の方々と一緒に活動訓練ができてよかった。

◇公助・共助・自助の「共助」の部分の取り上げ方。地域のきちんとした地道な活動を地域福祉保健計画へどのように掲載していくかは課題意識として持ち続けていきたい。

◇瀬谷区でも第四期計画の策定が始まります。そのときに、評価をどうするか盛り込んで考えていかなければならない。

瀬谷区の評価のしかたが定着したと思うが区民の委員の方々も、自分がやっていることなのだというスタンスで瀬谷区の地域がよくなるかということでご議論いただき本来にありがとうございます。

3. その他事務連絡

30年度の予定について

第1回全域計画推進懇談会 6月21日 木曜日 14時～16時30分

地区別計画推進研修会 7月20日 金曜日 午後

地域福祉保健計画推進シンポジウム 11月17日 土曜日 午後

第2回全域計画推進懇談会 31年3月上旬

以上